

# あがの 市議会だより

第56号

令和5年  
**6月**定例会号  
令和5年7月14日 発行

## 主な内容

議案ピックアップ・議決結果	P1-2
常任委員会の活動報告	P3-4
市政を問う一般質問(12人)	P4-7
政務活動費の収支報告ほか	P8

色とりどりのあやめが見頃を迎えた瓢湖あやめ園で、6月18日、メインイベントのお楽しみバザーが行われ、多くの人でにぎわいました。瓢湖では、さまざまなデザインの花のぼりも気持ち良さげなプールに泳いでいました。



## 議案ピックアップ

提案された議案について、さまざまな視点から審議を重ねます。臨時会・6月定例会で審議した議案の中からお知らせします。

5月1日臨時会

### 一般会計補正予算(第2号)

#### 主な内容

- 住民税非課税世帯に対する価格高騰対策等重点支援給付金給付事業費

**1億846万1千円**

物価高騰による影響が特に大きい低所得世帯の負担軽減を目的として、住民税非課税世帯に対し、1世帯当たり3万円を給付。

- 子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費

**3,317万2千円**

児童扶養手当を受給するひとり親世帯や住民税非課税の子育て世帯に対し、児童1人当たり5万円を給付。



6月定例会

### 一般会計補正予算(第3号)

#### 主な内容

- ふるさと納税促進対策事業費

**7,075万7千円**

ふるさと納税返礼品の市場競争力の向上を図るため、返礼品の配送料を市が全額負担するとともに、この取組による寄付額増加を見込み、返礼品代及びポータルサイト手数料を増額計上。



- 電算システム運用管理事業費

**316万8千円**

令和6年4月以降、2歳までの第2子以降保育料の所得制限撤廃及び18歳までの医療費を無償化するための運用上必要となるシステムの改修費用を計上。

5月1日に臨時会が開かれました

6月定例会が6月2日～20日の会期で開かれました

2日 本会議

- 一般行政報告
- 議案の提案説明
- 一般質問1日目(4人が質問)



5日 本会議

- 一般質問2日目(6人が質問)

8日 本会議

- 一般質問3日目(2人が質問)



12・13・16日 各常任委員会

- 委員会に付託された議案等を審査



20日 本会議

- 各常任委員会の審査報告のあと討論を経て採決
- ※議決結果は2ページ

## 阿賀野市火災予防条例の一部改正について

### 主な内容

電気自動車等の急速充電設備について、全出力の上限を撤廃するとともに、「喫煙所」等と表示した標識と併せて表示する図記号を改めるため、条例の一部改正を行います。



## 財産の取得について

### 主な内容

#### ○高規格救急自動車

阿賀野市消防署かがやき分署に配置している高規格救急自動車が、老朽化により機能維持が困難となったため、緊急消防援助隊設備整備費補助金を活用して高規格救急自動車1台を取得します。



#### ○除雪ドーザ(11t級・ロータリ装置付)

市が所有する昭和62年製の除雪機械1台について、故障リスクの軽減や作業効率の向上を図るため、社会資本整備総合交付金を活用して更新します。



# 臨時会・6月定例会の議決結果をお知らせします

## 全会一致で議決した議案等

### 5月1日臨時会

議案名		審査した委員会※	議決結果
専決	阿賀野市国民健康保険税条例の一部改正について 令和5年3月31日専決	省略	承認
	阿賀野市税条例の一部改正について 令和5年3月31日専決	省略	承認
	令和4年度阿賀野市一般会計補正予算(第13号) 令和5年3月31日専決	省略	承認

議案名		審査した委員会※	議決結果
予補算正	令和5年度一般会計補正予算(第2号)	省略	可決

### 6月定例会

議案名		審査した委員会※	議決結果
人事	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて (田村あつ子氏、芋川敏之氏、田邊里恵氏)	省略	適任
	阿賀野市監査委員の選任について (照田伸宏氏)	省略	同意
補正予算	令和5年度阿賀野市一般会計補正予算(第3号)	総文 社厚 産建	可決
	令和5年度阿賀野市水道事業会計補正予算(第1号)	産建	可決
	令和5年度阿賀野市下水道事業会計補正予算(第1号)	産建	可決
条例	阿賀野市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部改正について	総文	可決
	阿賀野市特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	総文	可決
	阿賀野市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について	総文	可決
	阿賀野市火災予防条例の一部改正について	総文	可決

議案名		審査した委員会※	議決結果
その他	財産の取得について(高規格救急自動車)	総文	可決
	財産の取得について(除雪ドーザ(11t級・ロータリ装置付))	産建	可決
	字の変更について	総文	可決
	市道路線の認定について	産建	可決

※省略：本会議で即決したもの

総文：総務文教常任委員会 社厚：社会厚生常任委員会

産建：産業建設常任委員会

各委員会での審査結果は市ホームページでご覧いただけます。

## 意見が分かれた議案等

### 6月定例会

○：賛成 ×：反対 議長(市川英敏)は採決には加わりません。

議案名	審査した委員会※	議決結果	公明党	日本共産党				新風あがの					会派の所属なし				
			村上清彦	宮脇雅夫	岡部直史	松崎良繼	山口功位	風間輝榮	大滝勝	百都順也	加藤博幸	遠藤孝	荒澤浩和	遠藤智子	近山修	清野栄一	天野市榮
新潟の最賃は信越・北陸・関東13都県中12位の低さである。抜本的に底上げするための意見書採択を求める請願書	産建	不採択	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○
要請 賛成意見 仮に1,000円の時給をもらっている人が1日勤務しても8,000円、20日勤務しても160,000円にしかならない。これで公租公課を引かれて、手残りがどれくらいになるかということを見ると、もう少し抜本的に最低賃金を引き上げて景気回復につなげるべきだ。																	
発議 適格請求書等保存方式(インボイス制度)の延期・見直しを求める意見書の提出について	省略	否決	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○

# 常任委員会の活動

## 総務文教 常任委員会

総務部所管の市政全般の企画や調整、財務、市税、防災、教育等に関する調査や議案・請願等を審査します。

令和5年4月24日に所管事務調査を行いました。

### 学校給食のセンター化について

**安田学校給食センターについて**  
安田学校給食センターは、平成30年に旧山手小学校グラウンド跡地に移転新築した施設です。最大調理能力はおおむね1,000食程度として、調理機器が導入されています。現在の配送校は安田小学校、安田中学校、堀越小学校、県立駒林特別支援学校です。安田小学校所属の栄養教諭が配置され、調理業務は民間委託です。

調理中は、食材受け入れエリアで検品を行った後、下処理エリアで肉類の下味付けや野菜の皮むき洗浄が行われ、最終の加熱調理を行う主調理エリアで煮炊きがされます。

出来上がった給食は、高性能の断熱食缶を使用し、専用コンテナに格納して専用トラックで安全に衛生的に各学校へ届けています。

午後には学校から食缶や食器が回収され、洗浄エリアで洗浄された後、コンテナエリアの消毒保管機で熱消毒及び保管を行います。翌日に備えます。

**センター調理方式のメリット・デメリットについて**  
メリットは、食材調達におけるスケールメリット、栄養教諭の配置による食育の充実、衛生管理の徹底、経常経費の削減、学校現場の多忙化解消、余剰能力の有効活用等が挙げられ、デ

メリットとしては、配送時間の分だけ給食の出来上がり時間が早くなる、学校行事等に合わせた対応力が低い、食中毒等発生時の被害範囲が大きい、調理員の顔が見えにくい等が挙げられます。

デメリットとしては、配送時間の分だけ給食の出来上がり時間が早くなる、学校行事等に合わせた対応力が低い、食中毒等発生時の被害範囲が大きい、調理員の顔が見えにくい等が挙げられます。

**安田小学校文部科学大臣表彰について**  
令和3年度に、安田小学校が学校給食優良学校等として文部科学大臣より表彰されました。

評価された点は、地場産物を積極的に活用し、学校独自で地元食材への理解を深めるための授業の実施。給食にかかわる人への感謝の気持ちを育む教育の実施。市が行う中学生生活習慣予防事業と連携した、子供たちの健康増進のための献立作成と給食を通して健康教育の実施です。

**京ヶ瀬学校給食センター設置方針について**  
整備方針としては、学校給食衛生管理基準が示す現在の衛生水準をクリアした施設を目指し、安田学校給食センターと同等の施設にしたいというふうに考えています。

**質疑・委員会意見**  
説明を受けた後、委員からは、アレルギー対応が必要な児童生徒の人数や対応食の提供方法について、食材の仕入れや、食材の品質確認について、食中毒の発

生の安全面やリスクについて、京ヶ瀬学校給食センター設置にかかる費用について等の質疑がありました。



安田学校給食センター

閉会中の継続調査事項(9月定例会まで)  
阿賀野市の災害対応について

## 社会厚生 常任委員会

民生部所管の福祉、介護、子ども、保健、医療、環境、生涯学習等に関する調査や議案・請願等を審査します。

令和5年4月25日に所管事務調査を行いました

### ごみ処理の現状と課題について

**ごみの排出量とリサイクルの現状**  
当市における令和3年度のごみの排出量は1万4,735トンで、市民1人1日当たりの排出量に換算すると978グラムとなります。平成16年の合併当時と比較して、ごみの排出量全体としては約18%、1人当たりの排出量としては3.7%減少しています。

そのうち、可燃ごみの排出量は1万1,778トンで、平成16年の合併当時より約15%の減少となつています。

令和3年度は、焼却等によりごみ排出量全体の74%を減量化し、16%を再資源化、最終的に10%を埋立て処分しました。

年度	人口(人)	排出量(t)					1人1日排出量(g)
		可燃ごみ	資源ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ	合計	
H16	48,755	14,000	3,201	250	622	18,073	1,016
R3	41,238	11,778	1,996	206	755	14,735	978

**ごみの分別について**  
現在、当市のごみの分別区分については、安田地区とほかの3地区で、一部異なる区分となつています。例えば、水原・京ヶ瀬・笹神地区では分別されているプラスチック製容器包装、紙製容器包装が、安田地区では燃えるごみに含まれています。

この日、阿賀野市環境センターの現地調査も行い、施設の状況やごみ処理の方法について、担当職員から説明を受けました。令和4年度に補正予算を計上した修繕箇所についても確認を行いました。

また、安田地区では、白色トレイや紙パックなどは拠点回収ボックスが4か所に設置されており、そこで集積されたものについては再資源化されているとのこと。

現在、五泉地域衛生施設組合で中間処理施設を建設中ですが、令和7年4月の新施設稼働時には、ごみの分別区分が統一される予定です。

**阿賀野市環境センターの修繕箇所について**  
阿賀野市環境センターについては、平成26年に施設の長寿命化計画を策定し、計画的に機器の修繕や更新を実施しています。この計画外に突発的な不具合等が生じた場合は、緊急的に補正予算を計上し、対応しています。

**五泉地域衛生施設組合中間処理施設建設工事について**  
現在建設中の中間処理施設は、可燃物処理施設であるエネルギー回収型廃棄物処理施設と、不燃物処理施設であるマテリアルリサイクル推進施設に区分されます。

令和3年10月から造成工事に着手し、現在は建築工事のうち地下工事を行っています。令和6年の10月頃には建物プラントが完成する予定で、その後、試運転を行い、性能試験を行う予定です。性能試験に合格して最終的な完成となり、竣工を迎えます。工事は計画どおり順調に進んでいるとのこと。

委員からは、「安田地区とほかの3地区のごみの分別方法が統一されると、相当の混乱が予想される」、「阿賀野市環境センターは、いつどこが壊れてもおかしくない状況、突発的な故障には補正予算を組んでやるしかなく、もしボイラー等の故障が発生したら、五泉地域衛生施設組合にお願いするしかないのでは」等の意見が出されました。

阿賀野市環境センターが、五泉地域衛生施設組合の中間処理施設が稼働されるまで、無事に運転を継続できるよう願ひ、また、今後市民一人一人がごみの正しい分別・減量化の意識を持つて、新施設の延命化にもつながることを期待します。

担当職員から説明を受ける委員



閉会中の継続調査事項(9月定例会まで)  
高齢者支援の現状について

# 産業建設 常任委員会

産業建設部所管の道路、河川、商工業、農業、観光、公園、上下水道等に関する調査や議案・請願等を審査します。

## 令和5年5月10日に所管事務調査を行いました。 公営住宅の現状と今後の見通しについて

### 市営住宅

市営住宅は公営住宅法に基づき、住宅困窮者向けの賃貸住宅として建設されたもので、水原地区に2団地、安田地区に2団地の計4団地があります。

公営住宅の家賃は、世帯の収入、建物の造りや経年などに応じて金額が法令により設定されていることから、各団地または建物、世帯で金額が異なり、収入が著しく低くなった場合は、減免が受けられることとなっています。

①若葉住宅 昭和28年から30年にかけて建設され、一戸建ての平屋住宅と1棟5戸の集合平屋住宅からなり、同じ敷地内に混在する団地です。いずれも築後70年ほど経過し老朽化が著しいことから、順次退去で空いた住宅を取り壊しており、敷地内に住宅が散在している状態にあります。なお、現在一戸建ての平屋住宅に7世帯、集合平屋住宅に2世帯の計9世帯が入居中です。

②学校町住宅 昭和47年から48年に建設され、2階建てのメゾネットタイプの集合住宅6棟、32戸からなります。築後50年ほど経過し、現在16世帯が入居中です。

③源四郎団地 平成8年に建設され、2階建て1階・2階に各5部屋あり1棟に10戸ずつ、A棟B棟の2棟20戸からなりますが、棟ごとに1室の床面積が違い、入居要件も異なります。現在、20世帯が入居し満室となっています。

④源四郎第2団地 昭和54年に建設され、学校町住宅と同じく2階建てのメゾネットタイプの集合住宅3棟、10戸からなります。現在、8戸8世帯が入居中です。  
※他に昭和54年から56年にかけて建築された県営住宅が水原地区に1団地（安野住宅）あり、3棟78戸中、76世帯が入居中です。

番号	地区	団地名	建設年	経過年数 (令和5年)	階層	管理棟数・戸数	入居戸数	本来家賃月額	入居要件	転賃
1	水原	若葉住宅	S28~S30	70~68年	平屋	7棟7戸	7戸	1,100円~2,300円	-	なし
			S30	68年	平屋	1棟5戸	2戸	1,700円~2,600円	-	なし
2	水原	学校町住宅	S47~S48	51~50年	2階建 メゾネット	6棟32戸	16戸	9,200円~12,200円	-	なし
3	安田	源四郎団地	H8	27年	2階建	2棟20戸	20戸	17,000円~30,400円	A棟 単身不可 B棟 60歳以上・ 身障者単身可	あり
4	安田	源四郎第2団地	S54	44年	2階建 メゾネット	3棟10戸	8戸	16,400円~21,400円	-	-
県	水原	安野住宅	S54~S56	44~42年	4~5階建	3棟78戸	76戸	15,500円~23,900円	単身可	あり

※入居募集の住宅は、源四郎団地、県営安野住宅の2団地。老朽化により若葉住宅、学校町住宅、源四郎第2団地は入居募集停止。

### 現状

入居されている方のうち、事前申請を行い自己負担で増築を行った方もいます。退去時に現状復帰を基本も、各事情からそのままとなっている世帯が散見されました。また、空部屋の経年劣化が進み入居世帯への影響が懸念されます。

入居者からの主な連絡は、水回り、雨漏り、外付け給湯器の凍結に関するもので、都度対応をしているとのこと。なお、空部屋において通気孔や隙間からの野生動物の侵入が心配されますが、その報告はないそうです。

家賃については、毎年世帯の収入申告に基づき設定を行っています。古く建物であることから、結果的に家賃は低く抑えられる形になっています。

若葉住宅、学校町住宅、源四郎第2団地の市営3団地は、建設が

閉会中の継続調査事項(9月定例会まで)

公園・キャンプ場の維持管理状況について

らほぼ50年以上が経過し老朽化が進んでおり、耐震性等を考慮し入居募集を停止しています。  
入居の要望があった場合には、県営住宅に常に複数の空きがあることから、安野住宅等を紹介し対応しています。

### 今後の見通し

入居世帯の大半が高齢者世帯であり、住み替え・建て替えによる家賃の上昇を望まない声もあることや、県営安野住宅には常に複数の空き住戸があることから、建て替えを見合わせています。  
長寿化計画では、100戸ほど必要となっていますが、社会情勢の変化により住宅需要や入居希望などに様々な変化が生じていることから、それらを踏まえ高齢福祉部局など、関係部署と連携し整備計画の検討を今後進めることとしています。

### 委員会意見

家賃に関連し、世帯状況と世帯収入の把握に努め、特に世帯収入が多い場合は、適切な対応をお願いいたします。

また、建物の老朽化に伴い、今後の事業方向の確立に向け早急な検討と計画設定が求められます。必要な戸数の将来予測とその運営管理についての検討と合わせ、立地条件・子育て・高齢福祉等を考慮し、また街づくりの一環として総合的な事業展開を図られるよう取り組み、その際は、新潟市、流山市など他事例を参考にすることを要望します。



公営住宅の説明を受ける委員

## 一般質問



新風あがの  
加藤 博幸

### 子どもファーストの事業展開について

【質問】 今後の保育・育児・学びの環境整備の考え方を伺う。

【答弁】 各段階で支援ならびに環境整備を進めてきた。来年度は保育料の無償化において所得制限の撤廃を予定している。

【質問】 保育士の配置基準が見直される。当市の状況を問う。

【答弁】 既に、ほぼ新基準をクリアする保育士が配置されている。



無会派  
清野 栄一

### 介護保険について

【質問】 来年度からの第9期介護保険計画について①本市における課題、②認知症への対応③適切な保険料設定について伺う。

【答弁】 ①課題は、生活支援、支えあい活動や介護サービス事業における人材不足、経営難。制度の維持に向け、介護予防の推進、人材確保支援、保険給付の適正化などが課題。②介護認定された認知症高齢者は1,701人(3月末現在)。対策として予防教室の開催、サポート医への早期受診、相談窓口の周知・啓発。③保険料設定は、ニーズとサービスを的確に見込

### 小中学校教員の働き方改革について

【質問】 残業実態を伺う。

【答弁】 令和4年度において1か月45時間を超える教員の割合は、小学校33・9%、中学校44・1%。80時間超えは、小学校3・0%、中学校7・4%であり、全体として減少傾向。

【質問】 働き方改革の進め方を伺う。

【答弁】 学校長からの時間外勤務実態の報告とともに、時間外勤務の多い教員との面談、提出文書等の集約簡略化、電話対応時間の設定、休暇取得促進などの他、各学校とも「多忙化解消アクションプラン」を作成し、計画的に取り組んでいる。

【質問】 本市の保険料の収入別区分は11段階、新発田市9段階、新潟市は15段階となっている。新発田市は全ての段階で本市よりも安く、第3段階までは消費税を使って安くしている。新潟市は基準額が本市よりも少し高いが第3段階までは本市より安く、第1段階では本市は2万3千4百円、新潟市は1万6千円、第2段階は本市3万8千9百円、新潟市3万1千9百円、困っている人に優しい作り。来年度からの保険料は他市の状況も参考に収入の低い人に配慮すべき。

【答弁】 新潟市、新発田市の状況は承知していたが、低所得者の軽減に向け検討する。

### 災害避難所について

【質問】 5月に入って能登半島や千葉県、トカラ列島など各地で

### 地場産業の活性化について

【質問】 ご当地産品を知財で育み地場産業の活性化につなげてはどうか。

【答弁】 登録を行おうとする地域団体がある場合は、支援していきたい。

### 防災業務のデジタル化について

【質問】 AIやSNSを活用した早期の情報発信を問う。

【答弁】 国において令和6年度に新システムが稼働予定。全市町村が利用可能にて、これを活用していきたい。

【質問】 職員の業務負担軽減を伺う。

【答弁】 タブレット端末を活用し、現地状況を対策本部等に伝える初動体制や罹災証明発行システムとの連動を図り、負担軽減に努めている。

地震が頻発、また、線状降水帯などによる水害も予想される。災害は時を選ばずやってくる。そこで新潟市などでは公開している避難所運営マニュアルの公開及び法律で努力義務とされた自力避難が難しい高齢者や障がい者の「個別避難計画」の策定状況について伺う。

【答弁】 運営マニュアルは内部用の作りなので公開はしてないが検討する。個別避難計画の対象者は約2千人、策定済みは180人であり、更に策定に向け努力する。



◆その他の質問◆瓢湖及び周辺施設等への対応等について

# 一般質問



共産党  
宮脇 雅夫

## 安田体育館は廃止するな

**質問** 市の公共施設等総合管理計画で、安田体育館は廃止検討となっている。利用者数は1万2千人（R3年度）と減少しているが、安田中部活をはじめ毎日2〜3団体が利用しており、水原総合体育館への移動は無理改修し、もっと利用しやすくするべきではないか。

**答弁** 安田体育館は耐震不足で継続使用するには耐震補強や大規模改修が必要なので、「用途廃止検討」としている。今後は、代替施設の調整や利用者の意向調査を行っていく。



共産党  
岡部 直史

## 健康保険証のマイナンバーカード一体化について

**質問** 国、市ではマイナンバーカード普及とあわせ、健康保険証を廃止してマイナンバーカードに一体化することをすすめている。

**答弁** 健康保険証は国民の健康のため、郵送などで被保険者の手元に届けなければならぬもの。一方、マイナンバーカードは申請主義で、欲しい人が自ら申請するもの。制度設計が全く違うものを一つにしようとしており、法的にも実務的にも問題がある。

## 診療所廃業の緊急対策を

**質問** 3月には分田の佐藤医院、4月には安田の鈴木医院の廃業の知らせに地域住民は大きなショックを受け、困惑している。現在、安田地区では内科医は安田診療所しかなく、患者が殺到し受診制限している。交通弱者の住民は「医療難民」になるのでは」と、危惧している。この事態は、中核病院としてのあがの市民病院にも大きな影響を及ぼし、地域医療の崩壊の危機でもある。

**答弁** 阿賀野市は、旧水原郷病院の存続危機と再建を経て、全国でも先進的な「市立病院と地域医療を守り育てる条例」を制定している。この条例にも則って、市の相談窓口の設置、診療所と医師の確保などの緊急対策をとるべきだ。また、デマンドタクシー運行も早急に検討せよ。

されている。

**質問** 「資格確認書」は一年ごとに申請しなければならず、申請困難な障がい者、高齢者など申請できない「無保険者」が生じることがある。

**答弁** 国の拙速なすすめ方により、誤ったひも付けなど多くの問題が報道されている。特に年配の人は保険証一体化に不安をかかえている。

**答弁** 新たな受診先を、市内の診療所とあがの市民病院の協力で確保しており、受診先が見つからない状況ではないと認識している。通院には市営バスを受診可能な時間帯に運行している。医師確保と医療従事者の確保は、関係機関と連携をはかり努めていく。



## ◆その他の質問◆新中間処理施設で安田地区のプラスチック製品を焼却するな

**答弁** 阿賀野市では問題は発生していない。

## 小中学校教員の多忙化について

**質問** 文部科学省の調査によれば、依然として教師の長時間労働が常態化している。残業が減っていることだが、管理職から早めの帰宅を促されても、家に仕事を持ち帰っていない。改善したことにはならない。不登校も教員数不足や多忙化が一因だ。

**答弁** 多忙化解消は劇的な改善に至っていない。不登校は欠席が長期化しており、深刻な問題と捉えている。



新風あがの  
百都 順也

## キャリア教育の推進について

**質問** 当市においてキャリア教育をどう定義し、これまで取り組んできたか伺う。

**答弁** キャリア教育は、キャリア形成に向けて必要な資質と能力を育てる教育活動と捉えている。特別活動を中核としながら、学校の教育活動全体を通じて一人ひとりのキャリア形成と自己実現を図り、ふるさとへの愛着や誇りがもてるような取り組みを各校共通の理解として進めている。

取り組みとしては、児童生徒が小学校から高校までのキャリア

教育に関わる活動12年間分を蓄積し保管するファイルや「キャリアパスポート」として配布している。

また、チャレンジ精神や創造性、探求心等を「起業家精神」としてこれを育む重要性を認識し、キャリア教育の一環として各学校に趣旨の徹底を図っている。

**質問** キャリア教育を進める上での課題は。

- 答弁** 5点の課題があると認識している。
- ①職業体験活動のみをもってキャリア教育としている事
  - ②社会への接続を考慮せず進学のみを見据えた指導に陥りやすい事
  - ③将来の夢に重点が置かれ、働く事に必要な資質・能力が軽視されがちである事
  - ④地域の方との連絡調整や計画実施等の準備に時間がかかる



無党派  
遠藤 智子

## アピアランスサポート事業について

**質問** がんなどの治療の副作用による外見の変化に悩む患者をサポートするアピアランスケアは、「医療用ウィッグ等、胸部補整具、人工乳房を使用し、患者の外見のケアをすることが目的」と定義されていて、県内では5市で支援が開始されている。

**答弁** 県美容業生活衛生同業組合では、美容サロンで不安や悩みを取り除き、前向きに治療に臨めるような美容サービスを提供する「がん患者サポート美容師」の資格認定講習を開催している。当市にもサポート認定美容院が

あり、美容サービスが提供されている。

当市での支援について伺う。

**答弁** 令和5年3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画で「がんとの共生」について目標が掲げられ、がん患者の社会的な問題対策としてアピアランスケアが盛り込まれた。がん治療をしながら社会生活を送る人が増加しており、がん治療は心理的、経済的にも負担が大きく、治療と社会生活の両立にアピアランスサポートは重要な支援と認識している。市内の状況や近隣自治体の取り組みを参考に検討する。



⑤地域行事への参加が低下傾向である事

**質問** キャリア教育の実践には小中学校の一貫性が重要であるが、小中学校の連携体制づくりについて今後の考えは。

**答弁** 小中学校間でのキャリアパスポートの引継ぎに際して情報交換を密にしていきたい。

また、学校で行うキャリア教育を地域へ発信するとともに、地域行事への積極的な参加を働き掛け、学校評議会などの地域と学校の連携を図る組織を通じて、地域の理解と協働体制を構築したい。



## 公共施設の男性トイレにサニタリーボックスの設置を

**質問** 加齢や前立腺がんの手術の影響で、尿漏れパッドを使用している人が外出しやすいように、公共施設の男性トイレ個室にサニタリーボックスを設置する取り組みが全国で進み、県内でも設置する動きが広がっているが、当市での設置について伺う。

**答弁** 男性トイレへのサニタリーボックスの設置は、利用者の心的負担を軽減し、外出機会を創出する環境づくりに効果があると認識している。市内公共施設は、多機能トイレのある一部の施設に設置してあるが、男性トイレへの設置は、スペースなどを考慮し検討する。



共産党  
松崎 良繼



### 会計年度任用職員について

**質問** 正規、非正規を問わず可能な限り同一処遇が図られるべきだ。

**答弁** 一般職員と業務内容が異なっており、賃金格差が生じることは事実だ。

**質問** 現場には同じ仕事をしてあまりに格差が大きいという声がある。再任用の実態は。

**答弁** 毎年公募で採用する。昇給はない。

**質問** 仕事が継続して存在し、当人も継続を希望し、適正・能力が実証されている人は原則再任用をすべきだ。何年働いても変わらないというのは改めるべきだ。

きでは。

**答弁** そのような考え方もあるが、市としては今のところ単年度雇用の原則だ。

**質問** 給与改定で、会計年度職員も一般職員と同様に当年4月に遡って改定すべきでは。

**答弁** 総務省より通知もあり、それを踏まえて会計年度職員の給与改定を検討する。

**質問** 法改正で会計年度任用職員にも勤労手当支給が可能となった。来年度実施に向け条例改正を。

**答弁** 他市町村等の状況を参考に支給を検討する。

### インボイス制度の影響について

**質問** インボイス制度の導入によりシルバー人材センターには大きな負担が発生する。

**答弁** 料金値上げ交渉や事務効率化等、会員の配分にできるだ

け影響を与えないよう努めることが先決だ。

**質問** 道の駅直売所での対応はどうか。

**答弁** 設備面での態勢はできていないと聞いている。

**質問** 対応は複雑で現実的でないものになる。矛盾が避けられないのがインボイス制度で、中止もしくは延期を求めたい。

**答弁** 消費税の透明性確保のため避けて通れない。



道の駅の農産物直売所

### 農業収入保険料に助成を

**質問** 全国で400以上の自治体で保険料・積立金への補助を実施している。園芸振興を掲げる阿賀野市でも実施を。

**答弁** 農家の意識に合わせて対応していきたい。



新風あがの  
大滝 勝



### 当市の今後の地域医療について

**質問** 今年になって、市内の開業医2院が閉院された。市民からは、次はこの医院にかかればいいのか、という不安の声が聞かれる。また、ほかの開業医を見てもある程度の年齢であり、いつ閉院してもおかしくない状況が見受けられる。

厚労省もかかりつけ医制度を推奨している中、また、急速に少子高齢化が加速する中、今後、当市の地域医療をどう進めていくのか、市長の考えを伺う。

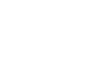
**答弁** 分田地区の佐藤医院と安田地区の鈴木医院の廃業について

では、残念なことと受け止めておるとともに、これまでの地域への貢献に感謝している。佐藤医院では1日15人程度、鈴木医院では1日50人程度の診療を行っていたと聞いており、廃業に伴う新たな受診先は、内科の診療所だけでなく、市内13の診療所の協力により、基本的に断ることなく、1日1人から5人程度を受け入れていただいております。あがの市民病院に対しても受け入れの協力依頼を行い、今後の受け入れについても支障ないので、現状は、受診先が見つからない状況ではないと認識している。診療所がなくなった地域では、市内の医療機関に受診可能な時間帯となるように、市営バス路線の運行を行っている。

今後は、市内診療所の先生方の高齢化も懸念されることから、かかりつけ医である診療所の減少



新風あがの  
遠藤 孝



### 阿賀野市地内一部市道と県道の今後について

**質問** 国道49号野地城から水原バイパスまでの間、市道の拡幅工事がなされた目的と、県道470号大室水原線では学校町交差点から境新田まで拡幅され、現在工事が凍結しているが、今後について伺う。

**答弁** 県道470号大室水原線については、学校町交差点から境新田、大野地、原までの県道新湯五泉間瀬線につながる一連の道路整備ができていないと認識している。国道49号野地城中湯線の道路整備の目的は、堀越小学校の通学路となつているが、歩道がなく狭路であるため、道路改良に伴い、児童が安心安全に通学できるように歩道整備を進めた。

### 阿賀野市地域防災計画について

**質問** 台風、豪雨、地震災害時の対応策について伺う。

**答弁** 台風や豪雨災害については、まず危機管理課で情報収集に努め、警戒レベルに応じた職員体制で災害対応にあたることとしている。本市に影響が出る恐れがある場合、早めの警戒本部の設置を検討する。地震の場合も震

少も課題である。高齢化が進む中、今後の地域医療を継続していくには、診療所と入院病床を必要と考えている。今後は、引き続き医師確保に取り組みと同時に、地域の医療機関や介護施設が連携し、地域で安心して生活できるように、地域医療体制の確保を図っていく。



度に応じた職員体制で対応している。

**質問** 海外からの技能実習生に対して、市として企業、自治会等に防災の指導等を行う予定はあるか。

**答弁** 今後、自治会の訓練に併せてできないか検討する。消防では、技能実習生を受け入れている企業からの希望で、消火訓練などの研修を行っている。

### 市政について

**質問** 田中市政になって11年、市長の目指した阿賀野市像について伺う。

**答弁** 11年間、市民ファーストの政策の実現に向けてやってきた。今後も地域経済の回復と活性化対策、人口減少対策を推進していく。

**質問** 緑・花・水辺のあるような市民の憩いの場所を整備してはどうか。

**答弁** 道路網計画やブランドデザインを早急に組み立てながら、市民から喜んでもらえるようなまちを目指していく。



無党派  
天野 市榮



### ごみ処理の現状と課題について

**質問** ごみ処理業務委託に関して、同一職員による不祥事がまた発覚し、処分が行われた。市長としての責任を伺う。

**答弁** 再発防止に努めていきたい。

**質問** 五泉地域衛生施設組合が発行する「広域ごみ処理施設整備ニューズ」第2号によれば、広域化後、①可燃ごみ、粗大(可燃)ごみは「エネルギー回収型廃棄物処理施設」で、②不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ、有害ごみについては「マテリアルリサイクル推進施設」で処理

されると明記されている。これは現在、一部民間施設で行っている中間処理業務を廃止し、全量、広域化処理施設で行うという意味か。

**答弁** 現在、一部民間施設で行っている中間処理業務は、広域化後も継続して行われる。



建設中の広域ごみ処理施設

### し尿処理の現状について

**質問** 「阿賀野市合理化事業計画」(令和元年度～5年度)は令和4年度に破綻したと考えるのが妥当と考えるが、市長の認識はどうか。

**答弁** 合理化事業計画は終了したと認識している。

**質問** 破綻の根拠は、同計画策定と併せて阿賀野市環境事業公社と締結した協定書第2条第1項か。

**答弁** 係争中につき、答弁を差し控える。

**質問** 調査特別委員会に提出された合理化事業計画に基づく代替業務は全て随意契約で阿賀野市環境事業公社に提供されていたのか。同計画の破綻後はこれらの業務はどうなっているのか。

**答弁** 代替業務のすべては一者随意契約で阿賀野市環境事業公社と契約。同計画の破綻後は入札等に切り替えている。

**質問** 同計画では、令和3年度からし尿の収集運搬車両台数を1台減車する計画になっている。減車分に見合う代替業務についてどのように対応したのか。

**答弁** 係争中につき、答弁を差し控える。

# 一般質問



新風あがの  
風間 輝榮



## 新型コロナウイルスワクチン接種について

**質問** これまでの感染者数はどうなっているのか。

**答弁** 令和5年4月23日現在で延べ8,330人。

**質問** 年代別接種予約状況はどうなっているのか。

**答弁** 5月22日現在、接種券発送者7,334人に対する予約者は5,251人で、予約率は71.6%。年代別では、65歳未満55.2%、65〜69歳66.9%、70歳代77.4%、80歳以上67.6%。



新風あがの  
荒澤 浩和



## 新型コロナウイルス感染症について

**質問** 感染症法の位置付けが5類感染症になり、法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、当市独自の取り組みや支援など今後について伺う。

**答弁** 抗ウイルス薬や入院費など、一部の公費支援が9月末まで継続され、ワクチン接種は今年度末まで無料となっている。今後の感染拡大防止の取り組みはワクチン接種を推進するとともに、県や医療機関と連携しながら感染状況の把握に努め、ホームページ、LINE等で随

## 指名入札除外について

**質問** 「学校給食施設排水処理槽等維持管理業務委託」を過去3年間受託していた業者が、突然指名入札除外されたが、特別な理由はあるのか。

**答弁** 合理化事業計画による代替業務のひとつとして、阿賀野市環境事業公社と随意契約で委託していたが、同計画の破綻により指名競争入札に切り替えて執行したところ。同法人が、必要とする入札参加資格者名簿（指名願い）に登録されていなかったため選定しなかった。

## 市有地の空地の活用について

**質問** 「虹の架け橋住宅」として提供する考えはないのか。

**答弁** 宅地として利用可能な更地面積は8,700㎡。人口減少対策や若者・子育て世代の定

住促進策として、売却を考えているところであり、条件が整ったところから取り組んでいく。

## 市営住宅について

**質問** 今後の計画についてどのように考えているのか。

**答弁** 若葉住宅、学校町住宅、源四郎第2団地の3団地は、建設から50年以上経過し、老朽化が進んでいる。一方で民間賃貸住宅の建設が進んでおり、住宅事情を踏まえた上で検討していく。

## 保養センター「あかまつ荘」について

**質問** 令和4年4月1日から指定管理者不在のため休館しているが、どのように考えているのか。

**答弁** 申請者の提出があり、審査を進めているところ。

## 当市の各学校の施設維持管理について

**質問** 各学校のグラウンドや中庭や遊び広場、校舎前や校舎の周りの定期的な管理・整備・剪定の環境維持はどのようにしているか伺う。

**答弁** 学校敷地が広いなど、その学校の用務員だけではの管理作業が困難な場合は、他校の用務員や教育委員会職員が協力し、一斉に共同作業を行う、なお樹高のある樹木の伐採剪定などの管理に關し、高所作業など危険を伴う場合は、専門業者へ作業委託を行っており、今後ともこのような取り組みを継続し、校舎周りの樹木に関する危険を回避して、良好な環境維持に努める。

## 当市4商工会の合併について

**質問** 当市4商工会も合併し、令和6年4月1日に新商工会が設立されるが、当市の考えや支援などを伺う。

**答弁** 市と商工会の連携は不可欠であり、具体的な話があった場合には、話をよく聞き、十分に協議をしていく。



## 議員としゃべりましょでば!

皆さんのもとへうかがい、意見交換・議会報告をします。自治会・団体・グループ等でお気軽に申し込みください。



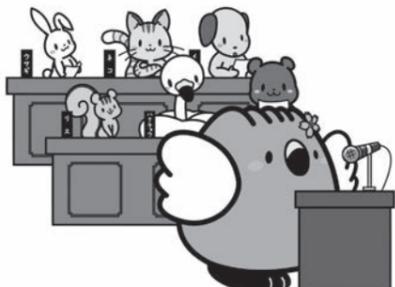
まちづくりポイント対象事業です。



**【会場】** 原則、市内の公共施設・地区公会堂等  
※使用料が必要な場合は、団体で負担してください。

**【申込方法】** 申込書を議会事務局へ提出してください。  
申込書は議会事務局に用意してあるほか、ホームページからもダウンロードできます。

※お問い合わせはお近くの議員または議会事務局へ



## 議会の情報は市ホームページをご覧ください

### ●検索サイトから

阿賀野市議会

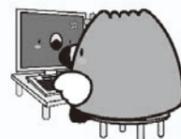
本会議議事録や議員名簿、会議の日程、本会議の中継映像・録画映像がご覧いただけます。ぜひご利用ください。



### ●中継はこちら

会議名、議員名、用語などから検索できます。  
視聴したいものを選んでクリック!

※スマートフォン、タブレット端末でもご覧いただけます。



阿賀野市イメージキャラクター「ごずっちょ」



## 議会を傍聴しませんか

事前の申し込みは必要ありません。傍聴席入口にある受付簿に住所・氏名をご記入いただくだけで傍聴できます。

※席数には限りがありますので、満席の場合は傍聴できないことがあります。あらかじめご了承ください。(現在、席数を39席から18席に減らし、席の間隔を空けています。)

※新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の5類に移行したことに伴い、マスクの着用については個人の判断といたします。なお、発熱や体調不良等の症状がある方は傍聴をご遠慮ください。



## 次回9月定例会の予定

8月24日の議会運営委員会で正式に決定します。その後、市ホームページでお知らせします。

月 日	会 議 名
8月24日(木)	議会運営委員会 (定例会の運営方針決定)
9月 5日(火)	本会議 (議案上程、一般質問)
9月 6日(水)	本会議 (一般質問)
9月 7日(木)	本会議 (一般質問)
9月11日(月)	総務文教常任委員会
9月12日(火)	社会厚生常任委員会
9月13日(水)	産業建設常任委員会
9月15日(金)	
9月19日(火)	決算審査特別委員会
9月20日(水)	
9月22日(金)	本会議 (委員長報告、採決)

## 議員表彰

6月20日、全国市議会議長会、北信越市議会議長会からの表彰状が市川議長、近山議員へ伝達されました。市川議長には、全国市議会議長会から評議員としての活動に対し、感謝状も贈られました。



写真左から  
市川英敏議長 (正副議長として在職4年以上)  
近山 修議員 (議員在職10年以上)

## 令和4年度(4~3月分) 政務活動費の収支を報告します



議会改革推進特別委員会 (政策部会) で収支報告書を審査

政務活動費は、議員の調査研究、その他の活動に資するため必要な経費の一部として、条例に基づき会派または議員に対して交付されるものです。

政務活動費は1人月額1万5千円が交付され、残額は市に返還します。  
令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で制限されていた議員活動が徐々に再開されました。

(単位：円)

項目 会派名・氏名	収入	支出						合計	残 額 (返還額)
		調査研究費 (資料印刷費・ 調査委託費・ 文書通信費等)	研修費 (交通費・宿泊費・ 文書通信費・ 参加費等)	広報費 (広報紙・ 報告書等印刷費・ 文書通信費等)	資料作成費 (印刷製本代・ 消耗品等)	資料購入費 (書籍購入費・ 新聞雑誌購読 料等)	事務所費 (維持管理費・ 事務機器購入・ リース代等)		
日本共産党 (3名) 宮脇 雅夫、岡部 直史、松崎 良繼	540,000			478,285		11,290	489,575	50,425	
公明党 (1名) 村上 清彦	180,000	20,600	60,660	28,590		71,610	181,460	0	
市川 英敏	180,000			28,480		67,991	96,471	83,529	
山口 功位	180,000		60,327	29,080		48,000	137,407	42,593	
風間 輝榮	180,000	29,600		28,590	1,133	53,098	112,421	67,579	
大滝 勝	180,000	19,600	59,727	28,480		27,168	134,975	45,025	
百都 順也	180,000	14,180		28,590		59,160	101,930	78,070	
加藤 博幸	180,000	20,820	26,220	69,040	14,665	82,776	213,521	0	
遠藤 孝	180,000	19,600		28,480		23,124	71,204	108,796	
荒澤 浩和	180,000	9,800	59,727	28,480		5,060	103,067	76,933	
遠藤 智子	180,000			28,970		86,384	115,354	64,646	
近山 修	180,000					99,395	99,395	80,605	
清野 栄一	180,000			244,436			244,436	0	
天野 市榮	180,000			170,126		11,160	201,086	0	
合 計	2,880,000	134,200	266,661	1,219,627	15,798	646,216	2,302,302	698,201	

注) 広聴費、要請・陳情活動費、会議費、人件費の支出は、いずれの会派、議員とも0円でした。

## 水防工法演習

6月11日、阿賀野川防災ステーションにおいて、消防団の皆さんによる水防訓練が行われ、4種類の工法(積み土のう、改良積み土のう、月輪、釜段)の演習を行いました。小雨の中、懸命に取り組む姿は地域の防災任務を果たそうとする気概が感じられました。



## 羽越本線洪水防止連携整備事業竣工式

6月3日、京和荘において羽越本線洪水防止連携整備事業竣工式が行われ、議長、副議長、産業建設常任委員会委員が出席しました。

下里地区にあるJR羽越本線阿賀野川橋梁と堤防の交差部は、阿賀野川で最も堤防から越流する危険性が高い箇所となっており、令和2年に阿賀野川河川事務所がJR東日本と連携して整備事業に着手し、令和4年度に事業が完了しました。これにより、消防団の水防活動の負担が大幅に減るほか、避難勧告の回数減なども期待されます。



## はたちを祝う会



5月4日、水原総合体育館において「はたちを祝う会」が開催され、259人が出席、議会からも議長、副議長が出席しました。議長からは、阿賀野市の次の世代を担う出席者の皆さんへお祝いの言葉が述べられました。

成人年齢が18歳に引き下げられたことにより、阿賀野市では昨年「成人式」から「はたちを祝う会」に名称を変更、対象者はこれまでどおり20歳としています。

晴天のもと、スーツや色とりどりの晴れ着に身を包んだ皆さんは、仲間との再会を喜び、会場には笑顔の輪が広がっていました。



発行：阿賀野市議会  
編集：議会改革推進特別委員会  
広報広聴部会  
〒959-2092  
阿賀野市岡山町10番15号  
TEL：0250-61-2489  
FAX：0250-61-2067  
E-mail：gikai@city.agano.niigata.jp

お問い合わせは  
こちらから



次号は令和5年10月16日発行の  
予定です。

議会改革推進特別委員会広報広聴部会  
部 会 長 松 崎 良 繼  
副 部 会 長 岡 部 直 史  
荒 天 清 近 村 遠 岡 松  
澤 野 野 山 上 藤 部 崎  
浩 市 栄 清 智 直 良  
和 榮 一 修 彦 子 史 繼

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ「5類」に移行し、日々の生活が通常に戻りつつあります。3年間コロナ禍への対応に追われてきましたが、深甚な影響を受けてきた地域活動の復活や、本年は阿賀野市政20年目の記念式典が予定され、コロナ禍で休止していた議会報告会も、開催に向けて準備中です。地域の歴史、文化を大切に「すべての世代の人が住みやすい市」を目指してがんばりましょう。

広報広聴部会委員 遠藤 智子

## 編集後記

